

時間がある

1. 教育を考える一言

「君たちには時間がある。有効に使いなさい。」

2. 背景

この言葉は、中学校の卒業式に担任の I 先生が我々生徒に贈ってくださった言葉です。I 先生は、「君たちには、これからまだまだ沢山の自由に使える時間がある。この時間の中で、沢山の経験をしなさい。そして、経験を通して多くの感動を味わいなさい。それが、君たちが進路について悩んだときに必ず役に立つはずだから…」とおっしゃられました。また、「君たちが、これからの時間を有効に使えるか、無駄にしてしまうかは君たちの心意気次第だ。有効に使うことを期待しているよ。」と付け加えられました。

I 先生は、これから先、我々生徒が自身の進路や将来についての選択を迫られ、必ず悩むときが来ることを確信していたのだと思います。

3. 考察

I 先生がおっしゃられた、時間を有効に使うこと、沢山の経験をすること、それは、「生きがいを見つけること」と言い換えられるのではないのでしょうか。私は、生きがいを見つけるためには、沢山の経験を積む必要があり、また、人が生きがいを見つけられたか否かは、その人の将来が豊かになるか否かと深く結びついていると考えています。

生きがいは、よく生涯学習で使われる言葉です。生きがいは、「生きる」と「～し甲斐がある」の二つの単語が合わさってできていて、後者の「～し甲斐がある」というところに意味があると思われま。神谷美恵子は、「生きがいについて」という著書で、生きがいを「人に真の喜びをもたらすもの」といい、漠然とした生きがいを、生きがいの対象と生きがいを感じている精神状態に分けて考えています。前者は、生きる張り合いをもたらす源泉であり、後者は、生の内容が豊かに充実していることを指します。生きがいは、私たちが生きていくため、そしてより努力するために、必要不可欠なことです。

生きがいを見つけることに対して最も有効な方法は、生涯学習を活発に行うことであるといわれています。生涯学習の実践は、自分自身をよく知ることになり、新しい境地も開ける（自己発見）し、人生観をも深めていく（自己改革）ことにもなります。

生涯学習支援に関わる者の中に、教師も含まれています。私は、生きがいを見つけることに最も時間をかけられるのは学生時代であり、教師は、生徒が生きがいを見つける支援という重要な役割を担っていると考えています。教師として、生徒が生きがいを見つけ、生徒の将来が明るいものとなるよう、支援を行っていきたいです。

引用参考文献

倉内史郎、鈴木真理 「生涯学習の基礎」 学文社 1998年

香川正弘、鈴木真理、佐々木英和 「よくわかる生涯学習」 ミネルヴァ書房 2008年